■　観天望記　（編集委員会から）

編集委員長　石垣（20期）

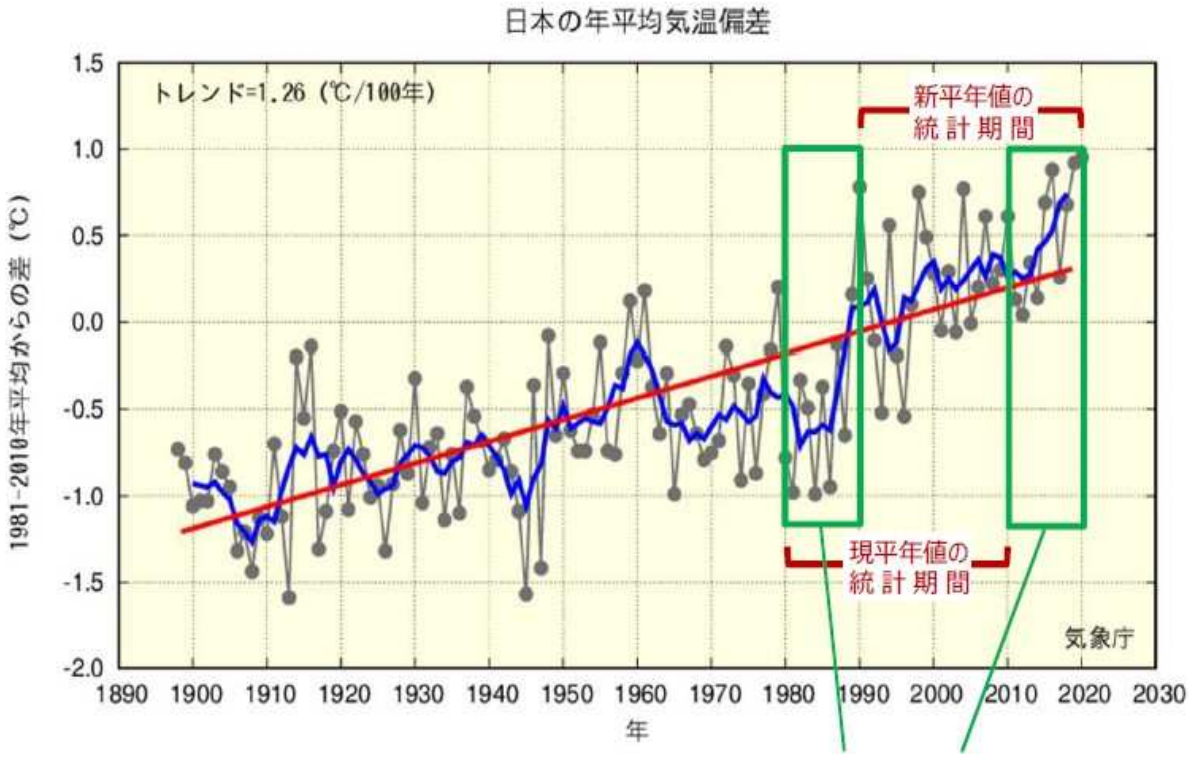
平年値

1年延期され異例ずくめだったコロナ禍の東京2020オリンピックが閉会となり、忙しかった(？)テレビ観戦から静かな日常に戻り、この観天望記を書いています。突然ですが、今年2021年5月19日は何の日だったでしょうか。

「逃げ恥カップル」の星野源さんと新垣結衣さんが結婚発表をした日！　それも正解ですが、このYWOB会報にふさわしい正解は、「新しい平年値の使用を開始した日」です。平年値はご存じのように気象や天候を評価する基準として利用され、「平年に比べ暑い夏」などのように使われますよね。オリンピックは4年に1度ですが、平均値は30年間の平均であり、更新は10年に1度です。西暦年の1の年から続く30年間の平均値ですので、今年が更新の年です。今年5月18日までは1981年～2010年の観測値の平均が平年値として使用されていましたが、1991年～2020年の新しい平年値が作成され、5月19日から使用が開始されました。

旧平年値(1981年～2010年)と比較した新平年値の特徴を気象庁の発表から抜粋してみました。やはり、地球温暖化の影響が出ているようです。詳しくは同庁のホームページをご覧ください。

・年平均気温は全国的に0.1～0.5℃高く、1980年代後半から急速に上昇しており、温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化による長期的な昇温傾向や数十年周期の自然変動の影響だそうです。また、都市化も影響しているそうです。やはり段々暑くなっていますね。下の図の赤い線がまさに右肩上がりを表しています。
・降水量は夏の西日本や秋と冬の太平洋側の多くの地点で10%程度多くなっています。降雪量は冬の気温上昇の影響などにより少なくなったそうです。苗名小屋便りを見ていると積雪は昔より少なくなってきたように思えます。
・さくらの開花はほとんどの地域で1～2日早いそうです。東京の桜は3月が当たり前になったのでしょうか。
・台風の発生率・日本への接近数・上陸数、梅雨入り・梅雨明けの時期などは大きな変化はないそうです。でも台風の激しさは年々増しているように思えますから、備えをしっかりしなければと思いました。



この差が平均値の差となって現れた